



理学部のバイオと農学部のバイオの違いを教えてください。



研究者の日々の作業は同じです。医学部とも薬学部とも工学部とも同じです。違うのは何を目標としてその作業をしているのか、という点です。

ミッションが違うという言い方をしてもいいでしょう。

たとえば、農学部でイネの遺伝子の研究をしている人がいます。

それは、お米の収穫を上げるためとか、寒い地方で育つイネを作り出すためとか、乾燥に強い品種を作ろうとか、農業生産利用の目的があってやっている場合がほとんどです。

理学部生物にも、イネの遺伝子の研究をしている人がいます。しかし、たぶんその人は生産に役立てようと思っているわけではなく、植物の受精の仕組みを知るためだったり、植物と動物の遺伝子の制御様式の違いを知るためだったりします。

それらを調べるには、品種の系統がしっかり記載されているイネは野生のタンポポより好都合だから、イネを実験対象に選んでいるのでしょう。

このように、理学部の生物研究は産業に応用するために行っているのではなく、自然の仕組みを知るため、ちょっと大きさにいうと人類の叡智を増進するため、に行っているのです（結果的に産業に応用できることもありますから、そうなったら一層嬉しいでしょうけれどそれが第一目的ではありません）。

同じように、医学部でネズミの胃酸分泌の研究をしている人は、胃潰瘍の原因解明や治療に役立てようと思って行っているのですが、理学部でネズミの胃酸分泌の研究をしている人は、細胞がH⁺イオンをどうやって輸送するのか、ひいては細胞はどうやって物質を出し入れするのか、その仕組みの根本を知りたいから行っているのです。

したがって、研究の具体的内容はほとんど変わりません。

現実に、理学部出身者が医学部の基礎医学部門の先生になることは珍しくない（どころか、ごく普通のこと）ですし、食品会社や薬品会社に就職して農学部出身者や薬学部出身者と机を並べて仕事をしていることも、ごくごく普通のことです。研究成果を発表する学会も共通です。

ただ、上の目的の違いを反映して農学部だと研究材料が食用植物だったり、森林昆虫だったり、養殖魚だったり、家畜だったりすることが比較的多く、医学部だと哺乳動物や、病原微生物だったりすることが比較的多いのに対し、理学部だととくにそのようなことはなく、普段なじみのない生物を相手にしている人も少なくない、といった違いは出てきます。

一度、お近くの大学の学園祭やオープンキャンパスに出かけて、研究室を案内してもらったり、そこで研究している学生や大学院生と話をしてみることをお勧めします。

共通点と相違点を実感できると思います。そしてどちらが自分にフィットするか、感覚がつかめるとと思います。